

成長戦略推進、収益力強化を

前澤工業

3力年の中期経営計画策定

前澤工業グループは7月11日、2026年度（27年5月期）を最終年度とする3力年の中期経営計画を策定したことを公表した。「人と技術力で未来を拓く」をスローガンに掲げ、①成長戦略

の推進②既存事業の収益力強化③企業価値向上に向けた経営基盤の強化を重点施策としている。2027年5月期の経営目標（連結）は、売上高が403億円（2024年5月期実績365億1

100万円）、営業利益が53億円（同48億7500万円）、利益率が13・2%（同13・4%）。基本方針は「社会・市場環境の変化を見据え、当社グループの製品・システム・サービスを通じ

新たな価値の創出と、成長を確かなものとするための技術開発およびビジネスモデルの強化に取り組んでいきます。加えて生産設備の増強および人的資本への投資を強化し、多様な人材が活躍できる環境・組織づくりを進め、企業価値をさらに高めていきます」としている。

重点施策の①では、再エネ・省エネ、官民連携、海外水インフラ分野で、成長戦略の推進を図る。具体的には、脱炭

素社会実現に向けた、バイオマス・省エネ技術の開発強化と事業展開、官民連携への体制強化と事業の推進、海外水インフラ市場における事業機会の創出に取り組む。

②では、バルブ・環境・メンテナンス事業において、安定的な事業拡大とさらなる収益力強化を図る。具体的には、顧客ニーズに応える技術開発・提案力の強化、製造プロセスの最適化と施工管理体制の強化、顧客対応力強化によるメンテナンス事

業の拡充を進める。

③では、企業価値を高め、将来にわたって持続可能に成長していくため、経営基盤の強化を図る。具体的には、人的資本の充実と社員一人ひとりが活躍できる職場づくり、持続的成長につながるDXの推進、ガバナンス強化と環境に配慮した企業活動の推進に取り組む。

前中期3力年経営計画（2021～23年度）では、「新たな成長への飛躍」をスローガンとし、事業領域の拡充、収益基盤の強化、持続的成長を支える経営基盤の強化を重点施策として、社会、事業環境、顧客ニーズの変化を見据え、持続的な成長を目指し活動した。その結果、2024年5月期において売上高、営業利益、営業利益率の3項目全て目標を達成した。この結果や同社グループを取り巻く事業環境を踏まえ、新たな中期3力年経営計画を策定した。